

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300163		
法人名	有限会社 北のゆめ		
事業所名	グループホーム 北のゆめ		
所在地	北広島市稲穂町東10丁目4-17		
自己評価作成日	平成22年9月12日	評価結果市町村受理日	平成22年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康的で季節感に配慮した食事の提供 看取りへの理解を深め実践できるよう努力している</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171300163&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171300163&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な新興住宅地にあり、広々とした田園に囲まれて四方の見晴しが良く、朝日の昇るところから夕日の沈むところまで眺められる、老後を静かに送るにふさわしい環境に恵まれている。国道が近く交通の便は良いが、近くに車の通りは少なく、静かで安全である。 食事の楽しみに特に力を入れており、安全を考慮して国産素材にこだわり、時には近隣の農家へ直接買い出しに出向いて季節の新鮮な野菜を食卓に載せている。ホームの菜園の作物も収穫の喜びとともに彩りを添える。料理はすべて手作りで、おかずは三品以上添えて食欲をそそり、栄養のバラエティーは豊かである。 看取りに対応した態勢を整えて、最後まで安心して居続けられる便宜を提供している。入居時に終末期についての受け入れ態勢の説明をし、医師を交えての話し合いを行い、本人・家族の意向を確認している。確認は毎年更新している。看取りに際しての職員の研修を行い、マニュアルを整備している。</p>
---

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作成し、毎朝、申し送り持に復唱し理念の実践に努めている。	安全第一、楽しく、プライド尊重、ゆっくり、地域とのふれあい、という理念をホーム内要所に掲示するとともに、毎朝職員が唱和して心に刻んでいる。オリエンテーション、カンファレンス、ミーティングで話題に取り上げ、迷いが生じたときは理念に立ち返る風習が浸透している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時に挨拶を交わし、庭の花を見せてもらうなど、馴染みの関係が出来ている。また町内会の総会や清掃など地域の活動に参加している。	町内会に加入して、清掃行事などに参加している。災害時の協力関係もできている。玄関に相談受付の掲示がしてあり、地域の人々が相談に来訪することがある。近く、地域の人を対象に介護教室を開催する計画もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談受付の看板を壁面に掲示し、電話等での質問もあり、対応を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し、話し合いや報告を行っている。	2ヶ月に1度、家族会、町内会、高齢者支援センター、市役所、消防署、警察署からの参加を得て、定例開催が定着している。ホームの運営状況を報告するほか、警察から徘徊SOSの説明、消防署から災害の事例説明などがあり、有益な会議となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会、運営推進会議、等で、諸問題の相談を行っている。	グループホーム連絡会、運営推進会議などで連絡や相談を行うほか、利用者の個別の問題や家族に関するトラブル、生活保護などの問題について、必要に応じて市役所を随時訪問して相談している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し日頃から拘束をしない様、職員全員に徹底している。	玄関は夜間施錠しているが、日中開放している。利用者の安全は見守りと出入口のチャイムとモニターカメラ、万が一に備えての近隣への依頼などで確保している。職員は研修で拘束をしないケアについて学び、十分理解している。言葉遣いについても気が付いたごとに注意し、話し合っ確認している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し職員の意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会等に参加し必要性に応じ活用できるようにしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い理解、納得を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来所時に意見、要望を聞き入れている。投書箱、相談窓口を設けている。</p>	<p>家族が来訪した際、ケアプランの説明の際、家族会の際などに意見や要望を極力率直に語ってもらうように努めている。家族会は世話を設けて年に1回、行事に合わせて開催され、自由な意見交換の場になっている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のカンファレンス、業務ミーティング、勉強会を行い、日頃よりコミュニケーションを図っている。</p>	<p>運営者や管理者は、毎日のカンファレンス、業務ミーティングの場や個別の場面で、施設の運営に関する職員の率直な意見を積極的に取り上げている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員1人ひとりの働きに応じて昇給や賞与に反映している。また早番を設けて、夜勤者の負担を軽減するなどしている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内で講師を外部より招き研修会を行っている。また他事業所の学習会や研修会に参加するなどしている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡会の中で研修会を設けたり、参加し、情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談を行って情報の収集に努め、本人の理解に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談を行って情報の収集に努め、家族の思いなどゆっくりと話を聞くよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、利用者、家族の想いを理解しサービスに努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者一人一人を尊重し、生活を共にしている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時等に利用者の状況や変化を伝え、家族と共に支援するよう努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>写真や手紙を飾るなどしている。手紙のやり取りをする方もいる。</p>	<p>古くからの友人が訪ねて来ることがあり、その際は宿泊も可能なようにしている。知人との手紙のやり取りもみられる。家族の同行で墓参りをするこもある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>孤立しないよう、状況や状態を見て対応するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の理由は入院や死亡が主で入院中にはお見舞いに行くなどしているが、死亡の場合は葬儀に出席する程度である。利用終了後の家族との関係は荷物を送るなど、必要以上には行っていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で把握できるよう努めている。	毎日の介護の中で聞き出すように努めているが、コミュニケーションの難しい人などは家族からの情報や過去の経歴を基にした慮らいで思いを把握するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から事前面談時や入居後に話を聞くなど把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察しながら把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、サービス担当者会議、面会時などに家族に意見を聴くなど介護計画に反映させている。	毎日のカンファレンス記録、バイタルなどの介護記録、家族、医師の情報や要望を踏まえて計画作成担当が計画原案を作り、これを運営者、管理者とともに検討し、さらに職員に意見を求めて完成し、家族に説明している。	計画作成に家族や、できれば本人も主体的に参加できるような形の検討を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り、カンファレンス、連絡帳を利用し、情報の共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や変化に合わせて、サービス内容の検討を重ね多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時などのボランティア、避難訓練時には消防署や近隣住民の協力を得ている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師に日々の状況を報告し必要があればかかりつけ医に連絡するなど適切な指示を受けられる。また訪問診療、入居以前からのかかりつけ医の協力がある。	かかりつけ医は本人と家族の要望に沿って決めている。提携医療機関や協力医のみならず、それぞれのかかりつけ医がみなホームへ往診に来るので、医師と職員との情報交換は緊密である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており状況を相談、報告し把握、管理されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、その際に病院関係者から経過報告などの情報収集を行い早期に退院できるよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて家族と話し合い確認している。状況に応じて担当医にも相談している。またマニュアルを作成し看取り時はそれにそったケアプランを作成している。	終末期の看取りを引き受ける態勢が整っており、終末期の処置について、個々の家族と、時に医師を交えて話し合い、本人・家族の意向を確認している。終末期対応のマニュアルが整備されており、職員は研修を受けている。家族の確認は毎年更新される。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練、勉強会の実施やマニュアルの作成を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成、定期的な訓練の実施、運営推進会議で地域の方々への協力の要請。地域の協力を得て近隣の方々の連絡網を作成、防災訓練への参加などの協力も得ている。	火災を想定した避難訓練は年に3回、内2回は消防署の協力の下に実施している。夜間想定も行っている。災害時の避難には運営推進会議を通じて近隣の住民にも協力を得ており、緊急連絡網があり、訓練にも一緒に参加している。職員の救急救命訓練も行われている。	地震への備え、避難時の救急備品、冬場や悪天候の場合の屋内避難場所の確保についても検討することを期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に「プライドを大切にすると掲げている。また常日頃から言葉掛けや対応に配慮している。	トイレ誘導の声かけは他の利用者に聞こえないように工夫し、下着の着脱の介助も声をかけてから行うように配慮している。利用者を敬う心を大切に、子供扱いや馴れ合いにならないように配慮し、気になる言動がある時はその都度管理者が注意を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状況に合わせた声掛け、身振り、手振り働きかけ、表情や反応などを観察し対応するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが利用者1人ひとりの状況に合わせた対応ができるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用している。出来る人はその日の洋服を自分で選んで着ている。また気候に合わせた服装が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には下ごしらえや食器拭きなどを一緒にやっている。	食材は国産品や産地野菜を取り入れ、利用者の会話の中から好みの献立を把握して食事が楽しめるように工夫している。事業所の畑の野菜を利用者と一緒に収穫して食事に取り入れたり、食事の支度の音や匂いを感じることで家庭的な環境になるように配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作成している。食事や水分の摂取量をチェックしユニット内のカンファレンスなどで話し合い、1人ひとりに合った支援ができるよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、1人ひとりの状況に応じて対応している。また必要に応じて歯科受診も支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握するなどし、利用者1人ひとりの状況に応じて対応している。	排泄記録でパターンを把握してトイレ誘導を行うことで、おむつ利用者も失禁が少なくなるように配慮している。夜間も声かけをしてトイレでの自立排泄を支援し、全介助の利用者も時間を把握しておむつ交換を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分、食事など便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	流れの中で1人ひとりの気分やタイミングに合わせることができるよう努めている。	基本的に月、火、木、金を入浴日にしているが、状況に応じて他の曜日にも入浴を行い、各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。入浴拒否がある時は家族や医師の協力を得たり、声かけする職員を交代しながらスムーズに入浴できるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう日中の活動に留意し、寝付けない時には話を聞いたり、ホットミルクなどを飲んでいただくなどしている。また日中も疲れている様子の時は臥床していただくなどしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の方を招いて勉強会をしたり、処方箋をファイルし常に見ることができるようにしている。また薬に変更があった時はそれについての状態の観察などを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり出来ることに参加している。(洗濯物干し、洗濯物たたみ、歌など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は車イスを使用しての外散歩や日向ぼっこをしている。</p>	<p>冬季以外は近隣など利用者の身体状況に応じた距離を散歩している。毎日散歩に出かける利用者もいる。馴染みの美容室や買い物などの個別外出、お花見や紅葉狩りなどの年間行事の外出なども行っている。生活リズムを整えるために外気浴を取り入れているが、冬季の外出頻度は少なくなっている。</p>	<p>利用者の健康状態に応じて、冬季も外気に触れる機会が少しずつ増えるように期待したい。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在は状態が重くなったせいか希望者がいない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は希望がない。 手紙のやり取りができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族から頂いた手芸品や花などを飾り、居間の壁には季節に合わせた飾り付けをしている。また生活音が常であり、食事やお茶の時間などには音楽をながしている。</p>	<p>居間の大きな窓からは明るい光が注ぎ、戸外の季節の移り変わりが感じられる。季節の装飾や時の見当識に配慮した日めくりカレンダーや時計などを考慮して配置している。温度や湿度も毎日3回記録して、過ごしやすい環境になるように配慮している。トイレのドアはプライバシーや安全面に配慮した造りに変更したり、洗面所は車椅子利用者が使いやすいような造りになっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>スペース的にも難しく、また現利用者の状況を考えたときに必要性がないと考えるが、テレビの前などが個人的に過ごせる空間となっている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテン、部屋の電気以外はすべて利用者本人、家族が用意したものであり、その中には今まで使用していたもの、馴染みの物、写真や手紙などがある。</p>	<p>利用者に応じて、ベッドや畳を敷いて布団を利用するなど、以前の生活習慣を継続して居心地よく過ごせるように配慮している。筆筒や椅子などの好みの物や、家族の写真や手作りの人形などを飾り、家族と協力して居心地よく過ごせるような居室作りを行っている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室、廊下に手すりを付けるなどし、少しでも自立できるよう、かつ安全に配慮している。また「便所」と紙を貼るなど、わかりやすくするための工夫をしている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300163		
法人名	有限会社 北のゆめ		
事業所名	グループホーム 北のゆめ		
所在地	北広島市稲穂町東10丁目4-17		
自己評価作成日	平成22年9月12日	評価結果市町村受理日	平成22年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事</p> <p>健康的(安全な食材など)で、季節感に配慮した食事を提供するように努めている。</p> <p>看取り</p> <p>研修を行い、ホームでの看取りに努めている。</p>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171300163&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171300163&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリエンテーションやカンファレンス、ミーティングなどでも話をするなどしている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が町内会の清掃などに参加、散歩などでのあいさつなどの交流をしている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、運営推進会議で時間をとって話をして行こうと考えている。また10月には勉強会を予定している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	そのように努力している		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行っている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	そのように努力している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し学ぼうと努力している。また職員お互いに声を掛け合い防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で勉強会を行った事がある		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように図っている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やケアプランの説明時、家族会などで意見や要望を聞き、反映できるよう努力している		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングの時に意見を聞くなどしている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給時やボーナスの時などに話をしている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得やホーム内外の研修の機会を設けるなどしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会が定期的に学習会や研修会を開催しており、それらに参加し研鑽に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い情報収集している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い情報収集をし、家族の想いなどを話を聴くよう努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用者や家族の想いや状況を確認するよう努めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事を模索して、コミュニケーションを図ったり、学んだりしている		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の時、ケアプランの説明時などに利用者の様子や状況の変化を細かく伝えるようにしている。また毎月「北のゆめ便り」に個別に日常生活についてのコメントを入れるなどしてこまめにコミュニケーションを取るようになっている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧友の面会や使い慣れた家具を使用して頂いたり、写真などを飾るようにしている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したりトラブルにならない様、状況や一人一人の状態を観ながら、利用者同士の交流がスムーズにできるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の理由は入院や死亡が主で、入院中はお見舞いなどに行くが、死亡の場合は葬儀に出席する程度であり、利用終了後の関係は荷物を送るなど必要以上の事は行っていない		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個別の基本状況を確認し、本人の想いを組み込むよう努めている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から事前面接時や家族会、入居後も折に触れ話を聴くなどして、把握できるよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察、アセスメントやカンファレンスなどで出来るだけ把握できるよう努めている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回見直しをし、状態に変化があった時にはその都度見直しを行っている。またカンファレンスでの話し合いや家族からの要望、担当者会議や本人の意向を普段の生活から聞き取るなどし、作成に反映できるよう努めている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り、カンファレンス、連絡帳などを利用し、情報の共有に努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の送迎や訪問診療の利用、介護タクシーの利用、訪問理容や美容室への送迎、ユニット相互での交流など状況に応じて対応するよう努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時のボランティア、避難訓練時は消防や近隣の方々の協力を得ている。また消防・警察や民生委員、支援センターなどに運営推進会議への参加をお願いしている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	数か所の病院と関係を構築、訪問診療を行って頂いており、利用者や家族の意向に沿ってかかりつけ医を選んで頂いている。また新たな疾患が見つかった時は、適切な病院の紹介を受け、受診につなげている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に毎日の状況を報告、必要があればかかりつけ医に連絡するなどし、適切な指示が受けられるような体制にある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、病院関係者から経過報告などの情報収集を行い、早期に退院できるよう努めている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては家族と話し合い、確認している。また状況に応じて担当医にも相談している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やマニュアルの作成を行っている。また救急救命の講習を受けて、急変時に備えている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成、定期的な訓練の実施、運営推進会議で地域の方々への協力を要請、近隣の方々の連絡網を作成、防災訓練への参加などの協力も得ている		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に「プライドを大切に」と掲げている。また常日ごろから個々に合わせて言葉かけや対応に配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状況に合わせた声掛け、筆談、身振り、手振りなどで対応するよう努めている。また言葉以外の表情や声のトーン、態度などの観察を行い本人の想いをくみ取ろうと努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課の中で、一人ひとりの状況に合わせて、ゆとりを持った対応ができるよう努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や希望があれば近所の美容室を利用するなどしている。またできる人にはその日の洋服を自分で選んで着て頂く、外出時はおしゃれや口紅などのお化粧の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備については難しくなってきたが、後片付けはそれぞれ役割を持って行っている。食事を楽しめるよう、好きな物の聞きとりなどを行い、席などにも配慮している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや嗜好については献立作成時に配慮している。切り方や盛り付け方の工夫、また状態に変化があった時にはカンファレンスなどで話し合い、その都度対応するように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行って貰っている。自分では十分にできない人や家族からの要望がある人には介助を行っている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を記録し、把握した上で状況に応じた対応に努めている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・水分・食事など便秘予防に取り組んでいる。排便のリズムを記録し便秘を減らすように努めている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの好みの湯温に配慮している。ご本人の気分を尊重しながらも、のぼせや何度も洗い続けられない様に気配りし、タイミング良く声を掛けるなどに努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態に合わせて休息を促している。また安眠を確保できるよう室温や湿度、音や光に配慮し、カーテンをしたりドアや窓を半開放したり、布団の調節などしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会をしたり、処方箋をファイルし常に見る事ができるようにしている。薬に変更があった時は、それに関しての状態の観察などを行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いやレクリエーション、リハビリなど一人ひとりがやりたいと思う事、出来る事を把握し、参加して頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩を行っている。身体状況の低下や認知症の進行に伴い外泊が困難な利用者が増えてきているが、家族の協力を得ての外出について検討中である		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の認知症の方が多く金銭管理は難しい状況である。希望がある場合は買い物時にお金を所持して頂き、自分で好きな物が購入できるよう支援するよう努めている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は電話をして利用者に安心して頂けるよう努めている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース内を季節に合わせた雰囲気作りに努め、視覚や聴覚にほど良い刺激の提供に心がけている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前は設けていたが、利用する方がいなかったため現在は設けていないが、ソファや食卓、洗面所周辺のイスなどで各々が思い思いに過ごされている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、蛍光灯以外はすべてご本人・家族が用意したものであり、その中には今まで使用していた物、馴染みの物、写真や手紙などがある。また様々なのれんなどを掛けている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下に手すりを付けるなどし、少しでも自立できるよう、かつ安全に配慮している		

## 目標達成計画

事業所名(有)北のゆめ グループホーム北のゆめ

作成日：平成 22年 11月 1日

市町村届出日：平成 22年 11月 5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	冬季以外は近隣など利用者の身体状況に応じ散歩している。年間行事の外出もお花見や紅葉狩りなど実施しているが、冬季は、雪や寒さが障害となり、外出機会が頻度として少ないのが現状である。	利用者の健康状態に応じて冬季も外気に触れる機会を作る。また、日ごろより風邪をひかないように予防接種やうがい手洗いの励行の習慣化などの健康管理を行っていく。	今年の冬から予定計画を出して実施していく。 ・希望に応じて美容室への外出支援 ・行事への外出支援(菊花展など) ・雪を使ったレクリエーション(雪だるま制作など)	11月より
2	26	介護計画やモニタリングには、本人やご家族に何らかの形で関わっていただき、計画に要望を反映するようにしていた。しかし会議に同席して要望を伺う事は少なかった。面会時にご家族に要望を聞いたり、状態(理解力)に応じて本人と個別に要望を聞いたりしていた。	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人の状態に応じて出来る限り計画の段階から参加していただき、要望を具体的に引き出すように努める。 ご家族にも介護計画とモニタリングの意味を理解していただき、本人がより良く暮らせるようにはご家族もチームの一員として重要な役割を持っていること、そのためにも会議に同席することが大事であることを周知していく。	本人と個別に話をする機会を作り日頃から本人の思いを具体的にまとめておく。出来るだけ会議に同席していただく。 ご家族に見直しの時期になったら毎月の書類を送付する時に、一緒に手紙などでお知らせをして積極的な参加を呼びかけていく。面会時に本人と一緒に参加していただき現状に即した介護計画を作成していくよう努める。	今後の介護計画作成・モニタリングから順次
3	35	火災を想定した訓練は毎年2～3回消防署の協力のもと実施してきている。しかし自然災害などについての対策が不十分な現状である。ほかの災害に対する具体的な対策の検討を行っていく必要性がある。	災害対策として、一時避難したあとの屋内避難場所を確保し全職員が利用者を安全に避難誘導できる方法を身につける。 災害用の備品や備蓄の準備、保管場所を全職員が周知しておく。 地域との協力体制を今後も築いていく。	避難場所の確保と避難経路を把握する。 ・屋内避難場所の確認(地域の方の家) ・公の収容避難所の場所の確認(東部地区として北広島東 記念館・中央公民館・稲穂保育園) ・一時避難場所の公園の把握 ・実際に利用者との避難場所までの経路を歩いてみる。 備品や備蓄のチェックリストを作成し、優先順位をつけて順次購入準備して保管する。(食料・飲料水・排泄関係・救急セット・薬・防寒用具・懐中電灯・ラジオなど)	優先順位を考慮して1年以内

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。